

高知県口のリハビリテーション研究会

人生の最終段階で、経口摂取が困難になったとき、「鼻から管を入れられてまで生きていたくない！」と元気なところにおっしゃっていた患者さんが、病気で意思疎通不能となり、家族の意向で鼻から管を入れられて寝たきりになっている、そんな場面を見たことはないですか。この状況をどのように考えればいいのでしょうか。それを解決する手段の一つとして、厚生労働省が提唱したのが「人生会議」です。その第一人者の講師から「人生会議」とは何か、いかに考えるべきかということについて学びます。

記

日 時:令和4年 11月6日(日) 10:00~12:10

開催方法:ZOOMによるオンライン開催(先着500名まで)

参加費:医師・歯科医師2000円、その他の職種1000円、
一般1000円、(学生500円)

※歯科医師、歯科衛生士:生涯研修単位の取得が可能です。

《プログラム》

司会:高知県口のリハビリテーション研究会世話人 中野 知子

10:00 開会のあいさつ
株式会社フードケア 商品紹介

10:10 講 演 座長:高知県口のリハビリテーション研究会代表世話人 宮本 寛

**テーマ「食べられなくなったらどうしますか？
— 人工栄養で生きるということを考える —」**

講師:東京大学大学院人文社会系研究科
死生学・応用倫理センター
上廣講座 特任教授

会田 薫子氏



11:50 質疑応答

12:10 閉 会

主催:高知県口のリハビリテーション研究会

共催:株式会社 フードケア

後援:高知県医師会、高知県栄養士会、高知県介護老人保健施設協議会、高知県看護協会、高知県言語聴覚士会、高知県作業療法士会、高知県歯科医師会、高知県歯科衛生士会、高知県食と栄養の会、高知県地域密着型サービス協議会、高知県訪問看護連絡協議会、高知県薬剤師会、高知県理学療法士協会、高知県リハビリテーション研究会、高知県老人福祉施設協議会(五十音順)

